

2024年パリオリンピック・世界ローイング選手権日本代表選手選考方針の補足
「2024年SBS本戦後の評価レース等についての補足」

2023年12月18日付(2023-268)「2024年パリオリンピック・世界ローイング選手権日本代表選手選考方針」の、「(5) オリンピック日本代表選手決定について」補足いたします。

- (1) 「①SBS、評価レースにおける各種目の考え方」についての補足
 - 1) 「いずれも高いレベルにあって拮抗している場合」について。
→ 既に2023年世界ローイング選手権にて2024年パリオリンピック出場国枠を獲得した「男子シングルスカルMPA選手のSBS本戦における%IDT」あるいは「2024年パリオリンピック クォリファイレベル」を基準として、相対的に「高いレベルにある」かどうかを判断します。
また、その「高いレベルにあると判断されたカテゴリーのトップのクルー」から、%IDT 2%の差を目安に、「高いレベルにあると判断されたトップのクルーと拮抗している」かどうかの判断をいたします。
 - 2) 以上の判断の下、SBS本戦終了後に評価レースへの参加クルー・評価レースの方法等を提示します。
- (2) 「②アジア・オセアニア大陸予選における考え方」についての補足
 - 1) 「レースコンディションに差があったと判断した場合には、日本帰国後ただちに決定レースを行います。」について。
→ 上記の決定レースを行う必要が生じた場合、2024年4月25日(木)～27日(土)実施予定の「U19SBS」の期間中に実施する予定です。

以上

以下、(2023-268)「2024年パリオリンピック・世界ローイング選手権日本代表選手選考方針」の、「(5) オリンピック日本代表選手決定について」の部分再掲しています。

上記(1)(2)の補足に該当する部分を赤字にて表示しています。

↓

(5) オリンピック日本代表選手決定について

上記B-(4)のシニアナショナルチーム選考レース(SBS)においてシニアナショナルチームメンバーになった選手(ただし、M1x及びW1xの選手は除きます)は、その後に行われる評価レースによりクルーを決定し、アジア・オセアニア大陸予選および世界最終予選への派遣クルーを決定します。但し、評価レースの結果等を踏まえ、クルーが、オリンピック出場権を獲得することがおおよそ不可能な状態であると判断した場合には、派遣を見送る可能性があります。評価レースの詳細(評価基準を含む。)については決定次第、通知いたします。

① SBS、評価レースにおける各種目の考え方

各カテゴリーのクルーは、SBSならびに2024年3月5日(火)及び6日(水)(予備日:3月12日(火)、13日(水))に実施する評価レースで決定します。

-1) オープン男子シングルスカル(M1x)

SBSの男子シングルスカルの最上位者をパリ大会日本代表として内定し、関係団体への推薦等の調整を図ります。但し、メダルポテンシャルアスリートである荒川龍太選手が疾病や弔事等やむにやまれぬ事由への対応等でSBSに出場できなかった場合は2024年ワールドカップ第1戦又は第2戦でSBS男子シングルスカル最上位者との評価を行い、パリ大会男子シングルスカル日本代表を決定します。

なお、SBS男子シングルスカルの最上位者が軽量級カテゴリー選手であった場合はB-(5)-①-2) 軽量級男子ダブルスカルの決定フローに参加するかについては所属団体、対象選手と協議しま

す。

-2) 軽量級男女ダブルスカル (LM2x、LW2x)

SBSにおける上位者最大4名が、**いずれも高いレベルにあって拮抗している場合には**、その時点で試すべきと強化委員会が合理的に判断する組み合わせでダブルスカルを編成し、評価レース（編成の組替え等で複数回に及ぶ場合がある。）を実施します。評価レースの順位、タイム、%IDT等を総合的に勘案し、アジア・オセアニア大陸予選への派遣クルーを決定します。

各選手の体重設定は、男子71.2kg以下、女子58kg以下とし、レース当日に体重計測を行います。

-3) オープン女子シングルスカル (W1x)

SBSの女子シングルスカルの最上位者をアジア・オセアニア大陸予選に派遣します。

但し、SBSの女子シングルスカルの最上位者が軽量級の選手であった場合で、最上位者を含む軽量級ダブルスカルのアジア・オセアニア大陸予選への派遣が決定したときは、当該軽量級ダブルスカルの2名を除いた最上位者をアジア・オセアニア大陸予選にシングルスカルで派遣します。

-4) オープン男女ダブルスカル (M2x、W2x)

世界最終予選については、SBSの男女オープンシングルスカルの上位者最大4名（パリ大会男子シングルスカル日本代表を除く。）が**いずれも高いレベルにあって拮抗している場合には**、その時点で試すべきと強化委員会が合理的に判断する組み合わせでダブルスカルを編成し、評価レース（編成の組替え等で複数回に及ぶ場合があります。）を実施します。評価レースの順位、タイム、%IDT等を総合的に勘案し、オープン男女ダブルスカルでの世界最終予選への派遣クルー及び派遣の可否を決定します。なお、評価基準は、評価を行う前に提示します。

-5) オープン男女スウィープ種目 (M2-, M4-, W2-, W4-)

SBSにおける男女オープンペアの最上位クルーの世界最終予選への派遣の可否を総合的に判断し決定します。

但し、SBSにおける1位と2位が、**いずれも高いレベルにあって拮抗している場合には**、1位と2位のクルーでフォアを編成し評価レースを実施します。SBSの順位、レースタイム、%IDT、評価レースのタイム等を総合的に勘案し、オープン男女フォアでの世界最終予選への派遣の可否を決定します。

また、男女ペアがそれぞれ3クルー以上、**いずれも高いレベルにあって拮抗している場合は**、複数のスウィープ種目での世界最終予選への派遣の可否を決定します。

なお、評価基準は、評価を行う前に提示します。

② アジア・オセアニア大陸予選における考え方

アジア・オセアニア大陸予選の開催種目は男女軽量級ダブルスカル、男女シングルスカルの4種目のみですが、すでに男子シングルスカル種目は出場国枠を獲得しているため、男女軽量級ダブルスカル、女子シングルスカルの3種目が派遣の検討対象となります。

1つの出場権を獲得しているため、アジア・オセアニア大陸予選で獲得できる出場権は、原則として、1種目であり、例外的に、2種目で1位となった場合には、当該クルーに出場権が与えられるため、想定されるパターンは以下のとおりです。

- 1位になった種目が1種目のみの場合及び1位となった種目が2種目の場合、当該1位となった種目が出場権を獲得します。
- 1位になった種目が3種目の場合、日本ローイング協会が2種目を選択し、出場権の獲得種目を確定します。
- 1位となった種目がない場合には、最上位の順位を獲得した種目が出場権を獲得します。
- 複数種目が同順位となった場合、アジア・オセアニア大陸予選決勝におけるレースの%IDTを用いて決定します。

なお、**レースコンディションに差があったと判断した場合については、日本帰国後ただちに決定レースを行います。**

また、アジア・オセアニア大陸予選においていずれかの種目の1位となったが、パリオリンピックの参加権利を獲得できなかった場合は、そのクルーを当該種目で世界最終予選に派遣します。世界最終予選通過クルーについては、予選を通過した段階で、パリオリンピック日本代表クルーに決定します。

以上